

KEI

CHITSU

岐阜市粟野のキリガ類について……………藤原麒一朗…………7

採卵採幼によるゼフィルス類他の分布調 ……金森 伸一…………11  
査報告 (II) (1988年1月~1989年12月) ……金森美和子御岳 (岐阜県側) で採集したクロホソ ……野平 照雄…………15  
チョッキリとアダチアナアキゾウムシ

クロコバンゾウムシを野麦峠で採集……………野平 照雄…………15

ヒノキの枯れ枝よりニイジマ ……河路 掛吾…………15  
トラカミキリが羽脱

## 岐阜県昆虫分布研究会機関誌

## 岐阜市粟野のキリガ類について

藤原麒一朗

Note of *Cuculliinae* (Noctuidae) species at Awano (Gifu)

Kiichirou FUJIWARA

粟野は岐阜市の北部、高富町と隣接する位置にある地域である。平地ではあるが東は百々ヶ峰 (418 m)、西は眉山 (231 m) に囲まれているため、あたかも盆地のような印象を受ける。気温は概して岐阜市の中心部より 2, 3 度低い。この地域の中央を鳥羽川が流れ稲作が盛んであるが、近年水田の宅地化が進行しつつある。東の百々ヶ峰の麓には昔より好採集地として知られた三田洞がある。山の植生はアカマツを中心とする二次林でどちらかと言えば貧弱であるが、麓の谷筋には雑木林があり植物の種類も豊富である。今回の調査地点 (岐阜市粟野西 5 丁目 817 番地) は眉山の麓のこのような雑木林である。クリ、コナラ、アベマキ、アラカシ、ネムノキが多く、近くにはスギの植林や竹藪も見られる。

キリガという語尾をもつ蛾は Noctuidae ヤガ科の中の 3 亜科にみられるが、今回対象としたのは *Cuculliinae* セダカモクメ亜科に属するキリ

ガ類である。この仲間は成虫が晩秋や冬季に出現するという興味深い生活史を営んでおり、私が以前から調査を行ってきたグループである。今回の発表ではこの地点で採集できた種のリストを掲げるとともに若干の考察をつけ加えておきたい。

## 調査方法

黒砂糖を日本酒で溶いたいわゆる糖蜜を雑木林内のクリ、コナラなどの樹皮に綿にしみこませて置いて集まってきた蛾を採集した。餌が少ない冬季の蛾には灯火採集よりもこの糖蜜採集の方が効果的である。時間は日没よりおよそ 2 時間を目安とした。期間は 11 月から 3 月までとし、データは主として 1987 年から 1988 年にかけてのものである。谷筋のごく狭い範囲に発達した雑木林なので蛾の産出量は決して多くない。さらに冬季と言うことで飛来数もさほど多くない。それで比較的暖かい日を選び採集回数を極

力多くしてみた(21回)。ただし1月下旬から2月中旬は寒波のため採集ができなかった。原則として飛来した蛾のすべてを採集した。

リ ス ト

- 採集に於いてはこの他の種も飛来したが *Cucullinae* のみについてリストした。
- 年号は西暦で下二桁のみ記した。

*Dryobotodes pryeri* (LEECH) プライヤオビキリガ

1♂, 28. XI. 87.

*Xylena fumosa* (BUTLER) アヤモクメキリガ

1♂1♀, 26. II. 88. 1♂2♀, 14. III. 88.

1♂, 21. I. 88.

X. *nihonica* (HÖNE) ハネナガモクメキリガ

1♂, 14. XII. 87. 1♂, 22. II. 88.

1♂, 23. II. 88. 1♂, 26. II. 88.

X. *formosa* (BUTLER) キバラモクメキリガ

1♂1♀, 21. I. 88. 2♂1♀, 23. II. 88.

1♀, 24. II. 88. 1♂1♀, 1. III. 88.

1♂, 11. III. 88. 1♀, 14. III. 88.

1♀, 25. III. 88. 1♀, 26. III. 88.

*Lithophane pruinosa* (BUTLER) カシワキボシキリガ

1♂, 26. III. 89.

*Eupsilia tripunctata* BUTLER ミツボシキリガ

1♀, 14. III. 88.

E. *contracta* BUTLER ウシミモンキリガ

2♀, 4. I. 88. 2♂, 23. II. 88.

1♂, 26. II. 88. 1♀, 11. III. 88.

3♂1♀, 14. III. 88.

*Rhynchaglaea scitula* (BUTLER) チャマダラキリガ

1♀, 26. II. 88.

R. *fuscipennis* SUGI クロチャマダラキリガ

1♂1♀, 31. XII. 87. 1♂, 4. I. 88.

1♀, 21. I. 88. 1♂, 22. II. 88.

2♂2♀, 24. II. 88. 3♂1♀, 26. II. 88.

1♂, 11. III. 88. 1♀, 14. III. 88.

1♂, 17. III. 88. 1♂, 25. III. 88. 1♀, 9.

I. 89. 1♀, 13. III. 89. 2♂, 3. IV. 89.

*Agrochola evelina* (BUTLER) フサヒゲオビキリガ

1♂, 12. XII. 87. 1♂, 31. XII. 87.

1♂, 19. I. 88. 1♀, 22. II. 88.

3♂, 23. II. 88. 2♂, 24. II. 88.

1♀, 17. III. 88.

*Conistra ardescens* (BUTLER) カシワオビキリガ

1♂, 21. I. 88. 2♂, 23. II. 88.

1♀, 11. III. 88. 1♂1♀, 14. III. 88.

C. *fletcheri* SUGI テンスジキリガ

2♀, 31. XII. 87. 2♂, 21. I. 88.

3♂, 22. II. 88. 3♂, 24. II. 88.

1♀, 11. III. 88. 2♂1♀, 14. III. 88.

C. *grisescens* DRAUDT ミヤマオビキリガ

1♀, 12. XII. 87. 1♀, 4. I. 88.

2♂, 21. I. 88. 1♂, 23. II. 88.

1♂, 26. II. 88. 4♀, 14. III. 88.

2♂, 17. III. 88. 3♀, 22. III. 88.

1♂1♀, 25. III. 88. 1♂, 30. III. 88.

C. *unimacula* SUGI ホシオビキリガ

1♀, 12. XII. 87. 2♀, 21. XII. 87.

1♀, 23. XII. 87. 1♂1♀, 31. XII. 87.

1♀, 4. I. 88. 2♂1♀, 21. I. 88.

1♂, 28. I. 88. 3♂1♀, 22. II. 88.

3♂1♀, 23. II. 88. 3♀, 26. II. 88.

2♂, 1. III. 88. 2♂, 11. III. 88.

3♂, 14. III. 88. 1♀, 17. III. 88.

1♀, 22. III. 88. 1♂, 25. III. 88.

2♂1♀, 30. III. 88.

C. *nawae* MATSUMURA ナワキリガ

1♀, 19. XII. 87. 1♂, 24. XII. 87.

1♂1♀, 31. XII. 87. 1♂, 21. I. 88.

1♀, 24. II. 88. 1♂1♀, 26. II. 88.

1♀, 11. III. 88. 1♀, 14. III. 88.

1♀, 17. III. 88. 1♂, 30. III. 88.

*Telorta edentata* (LEECH) キトガリキリガ

1♂, 28. XI. 87.

T. *divergens* (BUTLER) ノコメトガリキリガ

1♀, 19. XII. 87. 1♂, 31. XII. 87.

*Antivaleria viridimacula* (GRAESER) アオバ

ハガタヨトウ

1♂, 28. XI. 87. 1♂, 21. XII. 87.

1♀, 31. XII. 88. 1♂, 2. XI. 88.

1♂1♀, 28. XI. 89.

*Isopolia hoenei* BOURSIN ヘーネアオハガタ  
ヨトウ

2♀, 23. XI. 87. 1♀, 31. XII. 88.

#### 注目すべき種について

アヤモクメキリガ

この種は低地の蛾ではあるが一般的に個体数が少ないらしく、いままで岐阜県から未知であった。リストで見るとおり栗野では決して希でなく採集できる。実際にこの地域では田の畦や土手に生育するカラスノエンドウより本種の幼虫が多く見つかる。飼育も試みたが蛹化までは成功したものの羽化にはいたらなかった。山よりもむしろ草原のような場所に多いのではないかと考えている。尚、他の場所でも本種を採集しているのでこの機会に発表しておく。

各務原市鷺沼羽場町 1♀, 12. III. 1983.

この産地も田畑に囲まれた平地で栗野とよく似ている。今後、平地での調査が進めば更に他の産地も明らかになるものと考えている。

プライヤオビキリガ

日本に産する *Dryobotodes* 3種のうち、岐阜県からは *pryeri* プライヤオビキリガと *intermissa* ナカオビキリガの2種が記録されている。岐阜県の昆虫(遠藤他, 1982)によれば既知産地は次のようである。

*pryeri*: 宮川村小谷, 高山市日影平, 上宝村平湯, 徳山村(現在は藤橋村)本郷, 萩原町西上田, 高鷲村西洞

*intermissa*: 美濃市小矢田, 板取村加部, 岐阜市金華山, 武芸川町小知野

全体として見ると *pryeri* は山地で、これに対して *intermissa* は平地で得られている。このような傾向から今回 *pryeri* が平地の栗野で採集できたことは興味深い。これとは別に私は藤橋村馬坂峠で同時に両種を採集しているのでデータを示しておく。

揖斐郡藤橋村馬坂峠 22. X. 1988.

*pryeri*: 2♂ *intermissa*: 1♂

おそらく美濃地方の低山帯では2種が混棲しているのであろうと考えられる。

ミヤマオビキリガ

*Conistra* 属の蛾は岐阜県昆虫分布研究会蛾グループのメンバーが以前から興味を持って調査してきたため、そのデータの蓄積量はかなり大きい。それをまとめて水野利彦・田部達也が(1982)「岐阜県における *Conistra* 属の分布」を発表している。これによれば岐阜県には *Conistra* 属のすべての種が分布していて、各種の間には次のような傾向があると述べられている。

- *fletcheri*, *unimacula* は低地から山地まで広く分布している。
- *ardescens* は低地帯に, *grisescens* は山地帯に分布している。
- *ardescens* と *grisescens* の分布域の間には一定の空白地帯があるらしい。
- *nawae* はアラカシの分布と関係が深いようで、低地帯に分布している。

この時点では *grisescens* の産地は飛騨地方がほとんどで谷汲村沖野(標高100m)が唯一の低標高地からの記録だった。今回の調査で岐阜市の低地にも分布していることが初めて明らかになった。それとともに *ardescens* との混棲の事実も確認できた。

#### 全体の傾向について

次に採集できた種類・数量についてその傾向をシイの原生林が保存されている金華山、栗野と同じような二次林を持つ百々ヶ峰の記録(藤原, 1981, 1982), と比較しながら述べておきたい。

*Rhynchaglaea* 属

採集できたもののほとんどが *fuscipennis* で *scitula* はただ1頭採れているに過ぎない。この傾向は百々ヶ峰と全く同じで (*fuscipennis* 22頭に対し *scitula* 1頭), 両種とも豊富に採れる金華山とは大きな違いがある。一般的に *scitula* の方がはるかに少ないとされているのは金華山のように原始林がよく保たれた場所があまり残されていないからではないかと考えられる。

## Xylena 属

*formosa* が最も多い。この傾向は他の地点でも同じで、*formosa* が広く岐阜市の平地に分布していることがわかる。*nihonica* は金華山ではかなり数が多いが、百々ヶ峰からは記録がなかった。粟野では少ないながら得ることができ、二次林をも棲息域にしていることがわかった。岐阜県の昆虫では産地として金華山以外の地名は出てこないが、今後各地から発見される可能性がある。尚、*fumosa* については前に述べた通りである。

## Conistra 属

この属については、その地点で今までに採集した総数とそれによって求められる各種の割合を調べてみた(表1)。この表から明らかになるのは *nawae* がシイ・カシの原生林を表徴する種であること、また *ardescens*, *fletcheri* が二次林を表徴する種であることだろう。これらの種の産出する割合を見れば、おおよそのその地点の環境が類推できると思う。そして *unimacula* は二次林に特に多いもののどこにでもいる。*grisescens* についてはなお詳かではない。

粟野では *unimacula* が全体の半数近くを占め最優占種と言えよう。これは同じく二次林を持つ百々ヶ峰と同様の傾向である。しかし次の点で異なっている。

- ・ *grisescens* が存在し、しかも数が多い。
- ・ *nawae* が百々ヶ峰より多い。
- ・ *ardescens* が意外に少ない。

このことから粟野は全体として二次林の蛾相を示すが、百々ヶ峰と比べれば、よりシイ・カシ林の要素を残しているといえよう。

表1. *Conistra* 属各種の総採集数とその比率

	粟 野	百々ヶ峰	金華山
<i>ardescens</i>	6 ( 7 )	76 (16)	4 ( 4 )
<i>fletcheri</i>	14 (16)	157 (32)	1 ( 1 )
<i>grisescens</i>	19 (22)	— —	— —
<i>unimacula</i>	36 (41)	245 (50)	17 (18)
<i>nawae</i>	12 (14)	8 ( 2 )	70 (76)

数字は個体数、( )内は百分率

## 出現期について

*Cuculliinae* のキリガ類には映秋に出現して冬を越さずに姿を消すものと、越冬して春先まで活動を続けるものがある。前者には *Isopolia*, *Telorta*, *Antivaleria*, *Dryobotodes* の各属があるが、粟野では11月から出現し、12月の終わり頃までは確実にいるようである。1月になってからは記録がない。後者には *Agrochola* など上記以外の各属があるが、これらはおおよそ12月中旬頃から出現し、3月いっぱい生存し続けるようである。*Conistra* 属の各種について出現期にずれがあることを以前に指摘した(藤原, 1982)。それは *ardescens* が他種より若干遅れて出現するらしいことであったが、今回は *ardescens* があまり採集できなかったの、確かめることはできなかった。ただ例数が少ない中ではあるが、*grisescens* の発生ピークが他種と少し異なっているように思われる。

以上のように述べてきたが、まだ不明な点が非常に多い。今後もより詳しい調査を行なっていきたい。

## 謝 辞

この調査に当たってご協力いただいた岩野田中学校の先生方、採集に同行された後木慎太郎、下藪 学、古田絵里子の各氏、いつも指導、助言いただいている岐阜県昆虫分布研究会蛾グループの方々に深く感謝する。

## 文 献

1. 藤原麒一郎(1981)岐阜市内での糖蜜採集で採れた早春の蛾。佳香蝶, 33:21-23.
2. —————(1982)早春のキリガの出現期について。誘蛾燈, 90:119-123.
3. 遠藤弘志他(1982)岐阜県産昆虫目録, ガ類(ヤガ科)武田享他, 岐阜県の昆虫:329-397。(岐阜県)
4. 水野利彦・田部達也(1982)岐阜県における *Conistra* 属の分布。誘蛾燈, 88:61-63.

採卵採幼によるゼフィルス類他の分布調査報告 (II)  
(1988年1月～1989年12月)

金森伸一・金森美和子

Distribution survey report of "Zephyrs" group, etc. be collecting  
eggs and larvae in their early stage. Part (II)

Shinichi KANAMORI Miwako KANAMORI

調査報告I(金森, 1981)に引き続き, 1988年および1989年の調査結果を調査報告IIとして報告する。同一地点におけるある一定の種の消長はどのような生態的要因により決められていくのであろうか? 筆者らはすでに過去数年間, 表題のテーマで調査をしてきたが, 例えば当調査報告でも意識的に何度かとりあげた旧徳山村における離村の補償の前提条件になっている私有林の伐採などが, 一時的には主に落葉広葉樹にその生活基盤を依存しているこれらの調査対象の種に大打撃を与えたであろうことは容易に推察できる。だがそのまま消滅するとも考

えられず, 筆者らはここ何年かはデータの蓄積を計りたいと考えている。調査方法の詳細については別の機会に報告する予定であるが, 出来るだけ同一方法を心掛けている。

なお当報告には一部台湾における調査データが含まれる事をあらかじめお断わりしておく, また, 台湾の調査においては京都市の岸尾雅一氏の絶大なるご助力を得た。心よりお礼申し上げます。

さらに調査区が岐阜県の場合, 場所欄の県名は省略した。また, 旧徳山村は現藤橋村である。

月日	天候	場 所	種 名	数	食 樹	備 考
(1988年)						
1 3	晴	吉城郡上宝村平湯	ダイセンシジミ	1卵	コナラ	スキー場雪不足
			ミドリシジミ	8	ヤマハンノキ	
4	雪	上宝村新穂高	ダイセンシジミ	6	ミズナラ	降雪始まる。採卵不調
			ジョウザンミドリ	5	ミズナラ	
			アイノミドリ	1	ミズナラ	
5	雪	同上		—		雪で採卵不可能
12	曇	久瀬村日坂貝月スキー場	ミドリシジミ	7	ハンノキ	谷に沿って点々とハンノキ自生
17	曇	谷汲村大洞	ミドリシジミ	1	ハンノキ	大洞地区の休耕田にハンノキ多いが産卵数極めて少ない
		谷汲村長瀬	ミドリシジミ	—		根尾川沿いのハンノキに発見できず

月日	天候	場 所	種 名	数	食 樹	備 考
2 10	雪	揖斐郡春日村山の神	ミスジチョウ	1 幼	カエデの一種	コナラから全く 発見できず
11	晴	旧徳山村本郷		—		
20	雪	益田郡小坂町巖立 公園	ミドリシジミ	8 卵	ヤマハンノキ	気温極めて低く し
21	雪	大野郡朝日村鈴蘭 高原スキー場	ジョウザンミドリ	1	コナラ	雪のため採卵不 調
3 6	曇	武芸郡伊自良村伊 自良湖	ミスジチョウ	16 幼	カエデの一種	今年は越冬幼虫 少ない
11 3	晴	台湾南投県合望山	ニシカゼミドリ	10 卵	ヒカンザクラ	今年は少ない
4	小雨	台湾花蓮県神木	ウラクロシジミ	22	台湾ノキ	標高が高く雨の ため寒い
			タカサゴミドリ	35	台湾ハン ノキ	
5	晴	台湾南投県南山溪	シロシジミ	31	アラカシ	例年並み
			台湾ミドリ	24	アラカシ	
6	雨	台湾桃園県上巴陵	台湾ミドリ	3	ナガバシラカ シ	雨のため大木に 上れず、フォル スターミドリ、 ホウライミドリ、 イチモンジミド リなど発見でき ず。タカラシジ ミの食樹シマタ ゴ確認
			タカサゴミドリ	10	台湾ハン ノキ	
20	雪	吉城郡上宝村中尾 高原	メスアカミドリ	3	サクラの一種	既に積雪15cm
			アイノミドリ	11	ミズナラ	冬芽の間に氷が 付着して発見困 難
			ダイセンシジミ	1	ミズナラ	
			ジョウザンミドリ	27	ミズナラ	
			ミスジチョウ	1	カエデの一種	
21	曇	大野郡清見村落合	ミスジチョウ	3	カエデの一種	
		大野郡清見村巢野 俣	ダイセンシジミ	5	コナラ	
			ミズイロオナガ	1	コナラ	
27	吹雪	旧徳山村門入	オオミドリ	13	コナラ	馬坂峠吹雪のた め10cmの積雪
		戸入	オオミドリ	11	コナラ	
	曇	本巢郡根尾村門脇	オオムラサキ	1 幼	エノキ	エノキの根元の 落葉は掃除済み 落葉の裏より越 冬中のフトハサ ミツノカメムシ の成虫発見
			ゴマダラチョウ	1 幼	エノキ	

月 日	天候	場 所	種 名	数	食 樹	備 考
12 8	晴	台湾南投県奥萬大	シロシジミ	35卵	アラカシ	例年になく少ない アサギシジミ発見できず
9	曇	台湾南投県梅峰	タイワンミドリ カレンコウシジミ	11 21	アラカシ ヤドリギの一種 (注)	
(1989年)						
1 3 5	雪	吉城郡上宝村新穂高	メスアカミドリ アイノミドリ ダイセンシジミ ジョウザンミドリ ミドリシジミ	1 11 2 14 23	サクラの一種 ミズナラ ミズナラ ミズナラ ヤマハンノキ	この冬は雪が多く、スキー場は滑走可能。採卵不調
2 12	曇	大野郡宮村日影	ミスジチョウ	1幼	カエデの一種	
10 1	快晴	本巣郡根尾村折越峠	メスアカミドリ	1卵	サクラの一種	野外バーベキューパーティーの途中で発生地ゴルフ場に変貌。このゴルフ場経営者による当地産のギフトチョウの保護の試みは、果たして成功するかどうか？
21	晴	揖斐郡谷汲村府内	ウラゴマダラシジミ	—		
25	晴	岐阜市彦坂	ウラゴマダラシジミ	94	イボタノキ	
26	晴	滋賀県霊仙山	キリシマミドリ	約100	アカガシ	この地も何時まで安泰であることやら？ 寄生率極めて高い。約70%ほどか？
11 3	快晴	板取村川浦谷	ヒサマツミドリ アイノミドリ ダイセンシジミ ミドリシジミ	2 1 1 10	ウラジロガシ ミズナラ コナラ ハンノキ	全体に産卵数少ない
19	快晴	台湾南投県合望山	ニシカゼミドリ	56	ヒカンザクラ	56卵は生卵、全体では約70%が寄生
20	快晴	台湾花蓮県神木	ウラクロシジミ タカサゴミドリ	106 19	タイワンイスノキ タイワンハンノキ	106卵は生卵 寄生率は約50% 所謂普通種であるこの種は常に

月日	天候	場 所	種 名	数	食 樹	備 考
21	快晴	台湾南投県合望溪	タイワンミドリ	56	アラカシ	寄生率が低い 種の繁栄と何等 かの関係がある のか？ 今年は産卵数比 較的多し しのつく時雨の ため、薄暗く、 また気温も低く 成果上がらず 今年のコナラ、 ミズナラ喰いの ゼフィルス比較 的多し
			シロシジミ	69	アラカシ	
12 17	小雨	旧徳山村扇谷 馬坂峠	ミドリシジミ	40	ハンノキ	
			エゾミドリ	8	コナラ	
			ダイセンシジミ	4	コナラ	
12 23	快晴	根尾村八谷 旧徳山村馬坂峠	ジョウザンミドリ	1	コナラ	
			ジョウザンミドリ	2	ミズナラ	
		根尾村八谷	アカシジミ	1	コナラ	
			ミズイロオナガ	1	コナラ	
			ダイセンシジミ	11	コナラ	
			ダイセンシジミ	2	コナラ	
			アイノミドリ	1	コナラ	
ミズイロオナガ	3	コナラ				
ジョウザンミドリ	1	コナラ				

(注) 鹿児島大学名誉教授の初島住彦先生の同定によれば *Hyphear kaoi* CHAO は、ヤドリギ科の一種で和名はなく、台湾の特産種とのこと。同定の労をとられた同先生に厚く謝意を表す。



写真1. タカサゴミドリシジミの卵



写真2. ニシカゼミドリシジミの卵

### 文 献

金森伸一(1988)採卵・採幼によるゼフィルス  
他の分布調査報告(1986年1月~1987年12  
月)。だんだらちょう, 18: 16-20.

### お知らせ

本誌バックナンバー入手希望の方は、下記連  
絡先へ問い合わせ下さい。(価格は会員価格)

1巻(3冊)2,630円, 2巻(3冊)2,410円  
3巻(3冊)2,250円, 4巻(3冊)2,250円  
5巻(3冊)2,460円, 6巻(3冊)2,430円  
7巻(3冊)2,730円, Supplement 2,000円

連絡先: 岐阜市柳戸1-1, 岐阜大学教育学部  
生物学研究室気付 岐阜県昆虫分布研究会



御岳（岐阜県側）で採集したクロホソチョッキリとアダチアナアキゾウムシ

野 平 照 雄

Teruo NOHIRA

昨年の夏(1989), 久しぶりに御岳に登った。この時, 幸運にも岐阜県初記録のクロホソチョッキリと, 本県では記録の少ないアダチアナアキゾウムシを採集したので下記のとおり報告しておく。

*Eugnamptus morimotoi* NKANE クロホソチョッキリ

益田郡小坂町御岳登山道, 15. VIII. 1988, 1ex.

*Hylobius adachii* KONO アダチアナアキゾウムシ

益田郡小坂町御岳登山道, 15. VIII. 1988, 1ex.

両種ともアオモリトドマツから採集したものである。

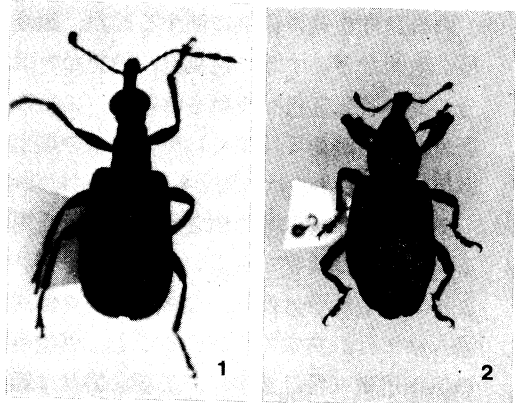


写真 1. *Eugnamptus morimotoi* クロホソチョッキリ

写真 2. *Hylobius adachii* アダチアナアキゾウムシ

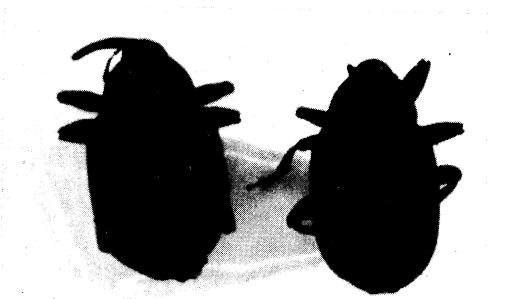
クロコバンゾウムシを野麦峠で採集

野 平 照 雄 (Teruo NOHIRA)

本県におけるクロコバンゾウムシ *Miarus atricolor* MORIMOTO は, 以前筆者が宮川村で採集した1頭の記録(野平, 1982)があるにすぎない。これを1989年のGKK採集会の時, 久しぶりに採集したので報告する。

大野郡高根村野麦峠, 30. VII. 1989, 2exs.

野麦峠の旧道沿いの草本をスーピングして



*Miarus atricolor* MORIMOTO クロコバンゾウムシ

採集したものである。20年ぶりに採ったせいか, 久しぶりに熱い気持ちになった。

文 献

野平照雄(1982) 岐阜県産昆虫目録, ゾウムシ類。岐阜県の昆虫(岐阜県環境部環境保全課): 471-490(岐阜県)。

ヒノキの枯れ枝より

ニイジマトラカミキリが羽脱

〒486 愛知県春日井市勝川町2-1576

筆者はニイジマトラカミキリ *Xylotrechus emaciatu* BATES の羽化脱出を針葉樹であるヒノキより認めた。本種は広葉樹の各種を広く食樹としているが, ヒノキを食って羽化したのは珍しいので報告する。

材の採集は1986年11月24日に岐阜県不破郡垂井町大滝で行い, ヒノキ樹皮下に若齢幼虫の食痕を見つけたので持ち帰り管理したところ次のように羽化脱出した。

30. VII. 1987 ~ 30. VIII. 1987, 5exs.

13. VI. 1988 ~ 13. VII. 1988, 7exs.

## 「啓 蟄」 投 稿 規 定

1. 啓蟄への投稿は、依頼原稿や特に編集委員会で認めたものを除き、少なくとも執筆者のうち一人が岐阜県昆虫分布研究会の会員でなければならない。
2. 内容は岐阜県の昆虫に関する論説、調査記録、短報などとする。採集記、随想などは当分の間GKK通信へ投稿されたい。また外国語のもの（摘要等は除く）や重要な分類上の取扱いを含むものは原則として受け付けない。
3. 原稿には原則として横書の原稿用紙を用いるが、短報は葉書でもよい。またワープロによるものも受け付ける。なおワープロ使用の場合は1行21文字で作成すること。啓蟄専用の原稿用紙（横21文字）が必要な場合は編集委員まで申し出ていただければ郵送する。
4. 原稿は当分の間原稿用紙40枚までを限度とするが、超過分著者負担のもの、または編集委員会により特に認められたものについてはこの限りでない。
5. ワープロまたは専用の原稿用紙を使用する場合は、次のことに注意をされたい。
  - (1) 英字の大文字は1マスに1文字、小文字は2マスに3文字書く。
  - (2) 数字は原則として1マスに2文字書く。
  - (3) 短報以外のものには英文表題をつけることができる。
  - (4) 氏名は行を改めて書き、続けて（ ）内にローマ字名を書く。
6. 注や文献を記す場合、本分の右肩に小さな文字で1)などと記す表記は使用しない。
7. 昆虫や植物の種名は少なくとも文章の中で最初の1回は省略せずに書き、2回目以降は混乱のない範囲で省略してもよい。また採集年月日、採集地、個体数、採集観察者名、標本所有者などのデータは必ず明記する。なお採集年月日の表記はなるべく23. VI. 1988または1988. VI. 23.のように略記されたい。
8. 図は明瞭に書かれたものであること。カラー印刷は原則として受け付けない。
9. 別刷（表紙なし）は実費で作成する。希望者は原稿の1枚目に分かりやすいように必要部数を朱記すること。（現在別刷の作製費用は、1ページあたり1,500円）
10. 原稿は原則として返却しないが、付図は申し出があれば返却する。
11. 原稿に不備がある場合は書き直しを求める場合がある。また編集の都合上、編集者が原稿の主旨を変えない範囲で手を入れることがある。

### ■■■■■■■■ 啓蟄の原稿を募集します ■■■■■■■■

- ◆ 原稿は原稿用紙に書いて下さい。
- ◆ 出来上り11ページ（400字詰原稿用紙約40枚）以上の報文を一挙掲載するときは、超過分費用が著者負担となることがあります。
- ◆ 原稿の書き方は、「啓蟄」投稿規定（本誌16ページ）を参考にして下さい。不備な原稿は、編集者が訂正を求めることがあります。
- ◆ 英文タイトルは要望があれば編集者がつけます。
- ◆ 原稿の送り先、照会先は下記のとおりです。  
〒501-25 岐阜市芥見南山三丁目11-1  
岐阜県立岐阜藍川高等学校内 田中正弘 宛

啓 けいちつ 蟄	Vol.8 No. 23
発行日／平成3年（1991年） 3月 6日	
編集者／田中正弘 野平照雄 尾藤成人 高井 泰 高田 清	
発行者／岐阜県昆虫分布研究会（GKK） 〒501-11 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学教育学部内 TEL 0582（30）1111内線3162 郵便振替 名古屋5-8149 年額会費 3,000円	
印刷所／名港印刷株式会社 〒455 名古屋市港区築三町3-6 TEL（052）652-3311	